

## 子どもが遊ぶということ

### 1. 遊んでばかりでいいの？

「遊んでばかりいないで、少しは勉強したらどうなの？」と親からいわれた経験は、どなたもお持ちではないでしょうか。でも一方で、「子どもは遊びを通して学ぶ」などともいいます。いったい、どちらが正しいのでしょうか？

私たち大人にとって遊びとは、仕事の疲れを癒したり、気分転換を図ったり、明日への活力を養う行為で、遊ぶことそのものが目的になることはありません。でも、子どもは遊ぶことが仕事だ、などといえます。そもそも遊びとはなんなのでしょう？

### 2. こっちの世界とあっちの世界

こっちの世界とは、私たちが生きている現実の世界です。あっちの世界とは、空想の世界や死後の世界、おとぎの国、夢などを指しています。浦島太郎の竜宮城などは、その典型的な例でしょう。遊ぶという行為は、こっちの世界からあっちの世界へ、“行って帰ってくる”をいいます。だから「我を忘れて遊ぶ」などというのです。

ここに『怪獣たちのいるところ』という絵本があります。これはまさに、主人公が自分の部屋であるこっちの世界から、怪獣たちの棲むあっちの世界へ、“行って帰ってくる物語”です。日本神話にも同様の話がいっぱいあります。そもそも神話自体が、あっちの世界のことなのですが・・・。

### 3. 否定の否定

私たち人間は、動物であることを否定して人間になりましたが、なったらなっただで自然との繋がりが断たれてしまって、内なる自然が壊れそうになります。ほんとうの自分が誰なのか、分からなくなってしまうのです。そのほんとうの自分を回復する行為が、遊びであり、あっちの世界へ“行って帰ってくる物語”を生きることなのです。それこそが遊びです。遊びはほんとうの自分を回復し、ほんとうの自分に出会う物語を生きる行為なのです。実はそれは、大人も子どももおなじなのです。

### 4. 幼児期の遊びが育てるもの

思春期前期の子どもたちの引き起こす問題が世間を騒がせていますが、その根っこになるのは、性と暴力へ向かうエネルギーをコントロールできない子どもの問題です。第二次性徴期に入った子どもたちは、大人になる体の変化に心がついていきません。そのとき、持て余してしまう“おとなエネルギー”を、スポーツや芸術や勉学に向ける知恵と力と勇氣は、幼少時の遊びによって培われます。遊びに没頭し、遊ぶために遊ぶ。このことが子どもたちの心を豊かにし、ほんとうの自分に気づかせてくれ、その土台が、思春期を支えるのです。正しい恋愛？もここから生まれます。